

# 同等比較を表す中国語の“相当”と日本語の「相当する」について —〈一方向の比較〉と〈双方向の比較〉の観点から—

疏 蒲剣

## 1. はじめに

中国語の“相当”と日本語の「相当する」は、二つ以上の物や事柄を比較して、両者の程度や状態が同等であることを表す動詞である。両者は同じ漢字を共有する二字漢語動詞で、意味も似ている。そのため、(1a)と(1b)のように両者は対応し、お互いの語でそのまま翻訳できることが多い。(1a)と(1b)は「中国の外交部長」の地位について、「日本の外務大臣」の地位と比較して同等の価値があることを表している。この場合、「日本の外務大臣」の地位は「中国の外交部長」の地位を測るための基準となっている。

(1a). 中国的外交部长相当于日本的外务大臣。(『日中辞典』(第2版)、p.1073)

b. 中国の外交部長は日本の外務大臣に相当する。(『日中辞典』(第2版)、p.1073)

(下線は筆者による。以下同じ)

しかし、“相当”と「相当する」は直接対応しない場合もある。たとえば、次の(2a)の“相当”は(2b)のように「ほぼ同じだ」と訳すのが自然で、(2c)のように「相当する」と訳すことはできない。(2a)と(2b)は「彼ら二人」を互いに比較し合って、両者のレベルが同等であることを表している。この場合、「彼ら二人」はお互いに相手のレベルを測るための基準となっている。

(2a). 他们两个人水平相当。(『中日辞典』(第2版)、p.1614)

b. 彼ら二人はレベルがほぼ同じだ。(『中日辞典』(第2版)、p.1614)

c. \*彼ら二人はレベルが相当する。

(1)も(2)も二つのものを比較して、両者の価値が同等であることを表している点では同じである。しかし、(1)は一方の価値を基準にしてもう一方の価値を測っているのに対し、(2)は二つのものが相互に基準となって価値を比較し合っている点で違いがある。本稿では前者を<一方向の比較>、後者を<双方向の比較>と呼ぶこととし、中国語の“相当”は<一方向の比較>も<双方向の比較>も表すのに対し、日本語の「相当する」は<一方向の比較>しか表さないことを主張する。

以下、本稿では中国語の“相当”と日本語の「相当する」の違いについて比較という観点から考察する。2 節では中国語の“相当”と日本語の「相当する」を対照した先行研究を紹介し、その成果と問題点を指摘した上で、本稿の分析の観点を提示する。次に、3 節では中日両言語における比較の方向性について論じ、4 節では中国語の“相当”と日本語の「相当する」の違いについて具体的に論じる。

## 2. 先行研究

呉(2012)は中国語の“相当”と日本語の「相当」の意味は多義的であるとして、それぞれの意味においてこの2語が対応しているかどうかを考察している。呉(2012)はこの2語には動詞、形容詞、副詞の意味があるとしているが、このうち動詞の場合に絞ってまとめると、後の表1と表2のようになる。ここで表1と表2の「A」、「B」は名詞を指している。また、「cla」と「att」について、呉(2012:67)では次のように説明されている。

「cla」とはクラスで、たとえば、この地球に生きている一人一人は異なるオブジェクトだが、同じく「人間」というクラスに属するので、一人一人の具体的な「人」はただ「人間」というクラスの実例化に過ぎない。

「att」とは属性で、クラスによる実例化したオブジェクトの有する性質と看做してよい。たとえば、「人間」というクラスは身長、体重、年齢という属性を継承した。

呉(2012:67)

表 1 は呉(2012)における中国語の“相当”の意味と構文をまとめ直したものである。呉(2012)は“相当”の意味を「釣り合う」と「該当する」の二つに分け、このうち、1～7 の場合は「釣り合う」の意味になり、8 と 9 の場合は「該当する」の意味になるとしている。

表1 呉(2012)における中国語の“相当”の構文と意味

	構文	意味	例
1	A+B+att+相当	釣り合う	北京与乌鲁木齐纬度相当
2	相当于B的cla		相当于令牌的一个东西
3	A+att+B+相当		它的经济水平与中部的相当
4	att+A+B+相当		有效射程他们相当
5	A+att+相当的+B		与飞影实力相当的机器人
6	A+B+相当的+att		玩家能以和对手相当的实力来战斗
7	att+相当的+A+B		兵力相当的两军
8	A相当于B	該当する	藏室史相当于国家图书馆馆长
9	A相当B		5亿英镑相当27亿美元

一方、表2は呉(2012)における日本語の「相当する」の意味と構文をまとめ直したものである。呉(2012)は「相当する」の意味を「釣り合う」、「該当する」、「当てはまる」の三つに分け、このうち、1～5 の場合は「釣り合う」の意味になり、6～8 の場合は「該当する」の意味になり、9と10 の場合は「当てはまる」の意味になるとしている。

表2 呉(2012)における日本語の「相当する」の構文と意味

	構文	意味	例
1	B+に相当する+cla	釣り合う	彼女に相当する人物
2	B+相当の+cla		博士課程在籍相当の実績
3	B+相当+cla		少佐相当官
4	B+に相当するような+cla		披露宴に相当するような会
5	A+att+に相当する+B		将棋の駒の強さに相当するキャラ
6	A+B+相当+。/copura	該当する	22.3ギガトンはSS-18型約900発相当
7	A+B+に相当する		天保甲辰夏日は1844年の何月に相当するか
8	B+に相当する+A		英語のBecauseに相当する「何となれば」
9	A+B+に相当する	当てはまる	画像を送る行為はわいせつ物頒布罪に相当する
10	A+B+相当+。/copura		これは執行猶予相当でしょう

まずは、表1の中国語“相当” の場合について見る。呉(2012)は中国語の“相当” には、「釣り合う」の意味を表すものと、「該当する」の意味を表すものがあると指摘しているが、その分類基準についてはあまり詳しく論じていない。本稿の見解では、呉(2012)の言う「釣り合う」の意味とは、たとえば、1 の“北京与乌鲁木齐纬度相当”(北京とウルムチは緯度がほぼ同じだ)のように、「北京の緯度」と「ウルムチの緯度」をお互いに比べて両者の価値が同

等であることを表すものである。すなわち、AとBはある属性においてお互いに同等の価値を持つことを表す表現である。一方、呉(2012)の言う「該当する」の意味とは、たとえば、9の“5億英鎊相当27亿美元”(5億ポンドは27億米ドルに相当する)のように、「5億ポンド」の価値について「米ドル」の価値を比較の基準にして述べるものである。すなわち、価値が未知であるAについて、価値が既知であるBを通してAの価値を表す表現である。

ところで、中国語の“相当”に対する呉(2012)の分類には検討する余地がある。表2の2の“相当于令牌的一个东西”(割符に相当するもの)は呉(2012)では「釣り合う」の意味に分類されているが、本稿の見解では「該当する」の意味に分類したほうが妥当であると考えられる。2の意味について見ると、これは“一个东西”(あるもの)が“令牌”(割符)と同等の機能を持つことを表す表現である。2は連体修飾節であるが、これを通常の文に直すと、“这个东西相当于令牌”(これは割符に相当する)になるため、構文上は8の“A相当于B”の変形と考えられる。すなわち、8の“藏室史相当于国家图书馆馆长”(藏室史は国家図書館の館長に相当する)は「藏室史」という古代の官職について、それと同等の機能を持つ現代の「国家図書館の館長」というポジションを用いて表すものであり、2と同じ意味構造を持っている。つまり、2は8を連体修飾節にしたものであるため、「該当する」の意味に分類したほうがよいと考えられる。

次に、呉(2012)で論じられている表2の日本語の「相当する」について見る。呉(2012)は「相当する」の意味を「釣り合う」、「該当する」、「当てはまる」の三つに分けているが、この三つの意味の分類基準については詳しく説明していない。これに関して、本稿では日本語の「相当する」の意味を三つに分ける積極的な理由はなく、「該当する」一つで十分であると考えられる。以下は表2の「該当する」の意味を説明してから、「釣り合う」の意味に対応するとされた1～5の場合と、「当てはまる」の意味に対応するとされた9～10に分けて三者が同じであることを論じる。

呉(2012)の言う表2の「該当する」とは、たとえば、7の「天保甲辰夏日は1844年の何月に相当するか」のように、「天保甲辰夏日」は話し手にとっては時間軸における位置が未知のものであり、それと価値が同等である西暦の月で表現することを聞き手に求めるものである。これを平叙文にすれば、「天保甲辰夏日は1844年の4～6月に相当する」になるが、この場合も現代人にとって年代を理解しやすい西暦を用いて「天保甲辰夏日」が西暦のいつに相当するかを表すものである。すなわち、「該当する」は価値が未知であるAについて、Aと共通する価値が既知であるBを通してAの価値を表すものである。

次に表2の「釣り合う」の意味について見る。1～5にはいずれも連体修飾節に当たるところに特徴がある。これらの構文を通常の文に戻すと、「A+B+に相当する」という形になる。たとえば、2の「博士課程在籍相当の実績」において、この「実績」は「博士課程在籍」に比べると、レベルなどにおいて、価値が同等である。つまり、価値が既知である「博士課程在籍」を用いて価値が未知である「実績」を表すわけである。前述のように「該当する」の意味は、価値が未知であるAについて、Aと共通する価値が既知であるBを通してAの価値を表すものであるので、表2の1～5は「釣り合う」より「該当する」に入れたほうが妥当であると考えられる。

また、「当てはまる」の意味に分類されている9と10について、呉(2012:79)は「現に起きた事象Aを既存する規則、法律Bに当てはめることによって、Bの規定したプロセスで事象Aを操作・処理することが目的である」としている。たとえば、9の「画像を送る行為はわいせつ物頒布罪に相当する」は、「画像を送る行為」を法律に照らし、法的責任においては「わいせつ物頒布罪」と同等であることを表している。しかし、これは「画像を送る行為はわいせつ物頒布罪に該当する」とも言い換えられるように、「該当する」の意味を持っている。したがって、呉(2012)の言う「当てはまる」の意味は「該当する」の中に含めて考えたほうが妥当であると考えられる。

以上に論じたように、中国語の“相当”は「釣り合う」と「該当する」という二つの意味に分けられ、日本語の「相当する」は「該当する」の意味であることが分かる。このうち、「釣り合う」の意味の場合では、中国語の“相当”は、ある属性におけるAとBの価値をお互いに比べあい、両者が同等の価値を持つことを表すものである。本稿ではこれは<双方向の比較>を表すと考える。一方、「該当する」の意味の場合では、中国語の“相当”と日本語の「相当する」は、ある属性における価値が未知であるAを、同じ属性における価値が既知であるBに比べ、両者の価値が同等である前提でBの価値を用いてAの価値を表すものである。本稿ではこれは<一方向の比較>を表すと考える。

以下、中国語の“相当”と日本語の「相当する」に共通する比較という意味を通して、それぞれの比較のあり方、すなわちその方向性を手がかりに両者の異同を論じる。

### 3. 方向性と比較

二つのもの間に存在する動作や状態の関係は、その方向性の違いによって、一方向

(非対称的)と双方向(対称的)の二種類に分けられると考える。本節では一方向と双方向の違いについて論じる。

まずは中国語の場合について見る。次の(3a)では、王さんは李さんを愛していても、李さんも王さんを愛しているとは限らない。一方、(3b)では、王さんは李さんを愛しているだけでなく、李さんも王さんを愛している。つまり、(3a)の“爱”(愛する)は一方向であるが、(3b)の“相爱”(愛し合う)は双方向である。

- (3)a. 小王爱小李。(王さんは李さんを愛している)
- b. 小王和小李相爱了。(王さんと李さんは愛し合っている)

朱德熙(1982:176-178)は前置詞の“跟、和、同”からなる“连谓结构”(述連構造)<sup>1</sup>に用いられる“谓词”(述詞)<sup>2</sup>について考察し、このうち、“相爱”(愛し合う)のような動詞を“对称性动词”(対称性の動詞)としている。また、朱德熙(1982)は“表示相同、相似、不同或相反等意义的谓词性成分”(異同、類似、対立などの意味を表す述詞性成分)<sup>3</sup>について次の(4)を挙げ、このタイプの述詞性成分も実は対称性を持つものであると述べている。

- (4)a. 我跟你一样(私はきみと同じだ)
- b. 我的意见跟你相反(私の意見はきみと反対だ)
- c. 他的身材跟你差不多(彼の体格はきみとほとんど変わらない)
- d. 杨树跟柳树不同(ハコヤナギはヤナギと同じではない)

しかし、朱德熙(1982)は対称性と非対称性を併せ持つ述詞については触れていない。たとえば、次の(5a)の“(很)像”、(5b)の“平行(于)”、(5c)の“不同(于)”は対称的にも非対称的にも用いられている。

- (5)a. 你跟他很像／你很像他(きみは彼に似ている)
- b. 直线 A 和直线 B 平行／直线 A 平行于直线 B(直線 A は直線 B に平行している)

<sup>1</sup> “连谓结构”(述連構造)とは動詞あるいは動詞性構造が連続した構造である。たとえば、“打电话通知他”(電話をかけて彼に知らせる)、“闭着眼睛想”(目を閉じたまま考える)など。

<sup>2</sup> “谓词”「述詞」とは動詞、形容詞、一部の代詞(ex.“这么”)である。

<sup>3</sup> “谓词性成分”(述詞性成分)は述詞と述詞的性質を持つ句を含めたものである。

c. 杨树跟柳树不同／杨树不同于柳树(ハコヤナギはヤナギと同じではない)

(5)の「／」の両側に挙げられた例はそれぞれの比較の方向が異なっている。たとえば、(5a)の“像”を次の(6)のように父親と息子の顔が似ていることを表す場合に用いると、制約がはっきりと見えてくる。すなわち、(6a)のような父親と息子の顔を比べあう場合は許容されるが、子供の顔が親に似てくると捉えるのが一般常識であるため、(6b)のように父親の顔を比較の基準にすると自然な表現となり、(6c)のように息子の顔を比較の基準にすると不自然な表現となる。

- (6)a. {父亲和儿子／儿子和父亲／父子俩} 长得很像。(父親と息子は顔が似ている)  
b. 儿子长得很像父亲。(息子は顔が父親に似ている)  
c. <sup>??</sup>父亲长得很像儿子。(??父親は顔が息子に似ている)

このように、中国語では二つのもの間に存在する動作や状態の関係には方向性の違いが見られる。比較においても比べ方の方向によって一方向的なものと双方向的なものに分けられる。

次に、日本語の場合について見る。日本語では方向性の違いは格助詞の「に」と「と」の使い分けに現れている。森田(1988:333-334)は「に」と「と」と共起する動詞や形容詞について、「に」を取る語、「と」を取る語、「に」と「と」のどちらも取る語に分けて例を挙げている。ここで一部を抜粋する。

①「に」を取る語

優る、劣る、与える、やる、(地理に)明るい、暗い、など

②「と」を取る語

違う、異なる、争う、話し合う、親しい、紛らわしい、など

③「に」「と」どちらも取る語

似る、代わる、比べる、とり替える、(彼の考えに／と)近い、等しい、など

上の三種類の語について、森田(1988:336)は次のように説明している。

①の「に」を要求する表現が主体側の一方通行の行為や関係、②の「と」を要求する表現が二者の相互行為や関係であるところから、「に」も「と」も取り得る③の動詞や形容詞にも、右の“一方—相互関係”“非対称—対称関係”の使い分けが見られるのではあるまいか。

さらに、森田(1988:339)は「友だちに比べて」と「友だちと比べて」の違いについて、次のように述べている。

(前略)「……に比べて」は友だちが比較の基準、「……と比べて」は比較の対象と云ってよからう。

本研究の言葉に直すと、比較の方向性との関係を示唆していると言える。すなわち、「に」の場合は、「 $A \rightarrow B$ 」のような一方向的な比べ方であり、「と」の場合は「 $A \leftrightarrow B$ 」のような双方向的な比べ方である。

以上の説明で分かるように、中日両言語において比較には方向性の問題が共通して存在すると言える。比較という観点から中国語の“相当”と日本語の「相当する」を考察する場合も、方向性に注目すると、その違いが明確になる。

中国語の“相当”と日本語の「相当する」は「A 相当于 B」、「A は B に相当する」のような構文で用いられ、どちらも二つ以上の量が共通するある属性においてほぼ等しいという意味を持っている。たとえば、次の(7a)では、“相当”は“1 万日元”と“500 元人民币”が貨幣価値という尺度においてほぼ等しいことを表している。同様に、(7b)では、「相当する」は「1 万日本円」と「500 人民元」が貨幣価値という尺度においてほぼ等しいことを表している。

(7) a. 1 万日元相当于 500 人民币。

b. 1 万日本円は 500 人民元に相当する。

二つの量に対して比較を行う場合、比較の結果によってこの二つの量が異なるか、または、ほぼ等しいかに分けられる。このうち、二つの量がほぼ等しい場合の比較が同等比較

である<sup>4</sup>。本稿で扱う“相当”も「相当する」も同等比較を表している。

#### 4. 比較から見た“相当”と「相当する」

本稿は同等比較には<比較の対象>、<比較の基準>、<比較のポイント<sup>5</sup>>という三つの要素が必要であると考え。<比較の対象>とは比較に用いられる対象物である。<比較の基準>とは比較するための参照物のことである。<比較のポイント>は比較の内容であり、すなわちなにについて比較するかということである。次の(8)を例にすれば、“一万日元”(「1万日本円」)は<比較の対象>で、“500人民币”(500人民币元)は<比較の基準>である。<比較のポイント>は文中に現れていない貨幣価値である。

(8)a. 1万日元相当于 500 人民币。

b. 1万日本円は 500 人民币元相当する。

((7)の再掲)

<比較の対象>と<比較の基準>のあり方によって比較の方向性を分けることができる。Aが<比較の対象>、Bが<比較の基準>に指定されている場合は<一方向の比較>である。一方、AとBが互いに<比較の対象>と<比較の基準>になっている場合は<双方向の比較>である。たとえば、上の(8)は<一方向の比較>の場合であり、次の(9)は<双方向の比較>の場合である。(9a)は中国語の“相当”を用いることが可能であるが、それに対応する日本語訳(9b)は「ほぼ同じだ」のようにしか表現できず、(9c)のように日本語の「相当する」を用いることができない。このように中国語の“相当”は<一方向の比較>も<双方向の比較>も表すことができるが、日本語の「相当する」は<一方向の比較>しか表すことができない。

(9)a. 他们两个人水平相当。

---

<sup>4</sup> 二つの量が異なる場合の比較は不等比較である。たとえば、次の(i)と(ii)は不等比較の例である。

(i) 藍山咖啡比卡布奇诺咖啡贵。

(ii) ブルーマウンテンはカプチーノより高い。

<sup>5</sup> <比較のポイント>は中国語における比較構文の研究で用いられた“比较点”を参考にしたものである。詳しくは范晓(1998)を参照されたい。

- b. 彼ら二人はレベルがほぼ同じだ。
- c. \*彼ら二人はレベルが相当する。

(2)の再掲)

以下は比較という視点から、“相当”と「相当する」の違いを考察する。以下、4.1 節では<一方向の比較>の場合について論じ、4.2 節では<双方向の比較>の場合について論じ、4.3 節では<比較のポイント>のあり方について論じる。

#### 4.1 <一方向の比較>を表す場合

“相当”と「相当する」は“A 相当于 B”と「A は B に相当する」という構文で用いられることがある。A と B は共通のポイント(ここで「P」と呼ぶ)においてほぼ等しいことを表すため、A と B を比較することが必然的にこの2語の意味に含まれている。“相当”と「相当する」は、いずれも A と B を比較した結果、 $A \approx B$  という関係が成り立つということを表している。ここでは、A を<比較の対象>、B を<比較の基準>と呼ぶことにする。そうすると、“相当”は次の構文(10)のように表すことができる。

(10) <比較の対象> + 相当于 + <比較の基準>

したがって、(11a)のように言えば“1 万日元”が<比較の対象>で“500 人民币”が<比較の基準>となり、一万円の価値を既知の人民元の価値を基準にして指し示す表現となる。一方、(11b)のように言えば“500 人民币”が<比較の対象>で“1 万日元”が<比較の基準>となり、“500 人民币”の価値を既知の日本円の価値を基準にして指し示す表現となる。

(11)a. 1 万日元相当于 500 人民币。(7a)の再掲)

b. 500 人民币相当于 1 万日元。

同様に、(12a)は<比較の対象>である“五千元”(5 千元)について、“他一个月的收入”(彼の一か月の収入)を<比較の基準>として、それとほぼ同じ価値であることを表す表現である。一方、(12b)は<比較の対象>である“他一个月的收入”について、“五千元”を<比較の基準>として、それとほぼ同じ価値であることを表す表現である。

- (12) a. 五千元相当于他一个月的收入。(5千元は彼の一か月の収入に相当する。)  
b. 他一个月的收入相当于五千元。(彼の一か月の収入は5千元に相当する。)

同様に日本語の「相当する」は次の構文(13a)で用いられ、(13b)や(13c)のように使われる。この点で“相当”と「相当する」は共通した性質を持つ。

- (13)a. <比較の対象>は+<比較の基準>に+相当する  
b. 5千元は彼の一ヶ月の収入に相当する。  
c. 彼の一ヶ月の収入は5千元に相当する。

#### 4.2 <双方向の比較>を表す場合

この節では構文的に<双方向の比較>を表す場合について論じる。この場合、(14a)と(14b)に示されるように、中国語の“相当”は用いられるが、日本語の「相当する」は用いられない。この場合、日本語では(14c)のように「ほぼ同じだ」という表現を用いるのが自然である。

- (14)a. 他们两个人水平相当。((2a)の再掲)  
b. \*彼ら二人はレベルが相当する。((2c)の再掲)  
c. 彼ら二人はレベルがほぼ同じだ。((2b)の再掲)

(14a)において“他们两个人”(「彼ら二人」)はお互いに<比較の基準>になりあっている。この場合、“相当”は次の構文(15)のような形で表される。

- (15) 集合名詞+<比較のポイント>+相当

さらに、次の(16a)では、二つの名詞(“小李”と“小王”)が提示されているが、どちらも相手のレベルを判断するための<比較の基準>になりあっている。この場合も、日本語では(16b)のように「相当する」を使うことができず、(16c)のように「ほぼ同じだ」という表現を用いるのが自然である。

- (16)a. 小李和小王水平相当。  
b. \*李さんと王さんはレベルが相当する。  
c. 李さんと王さんはレベルがほぼ同じだ。

この場合、“相当”は次の構文(17)で表される。

- (17) <比較の対象> + 和<sup>6</sup> + <比較の基準> + <比較のポイント> + 相当

#### 4.3 <比較のポイント>のあり方

この節では<一方向の比較>と<双方向の比較>に分けてそれぞれの場合における<比較のポイント>(=P)のあり方について見る。まずは<一方向の比較>における<比較のポイント>について見る。前述のように、中国語の“相当”と日本語の「相当する」は両方とも<一方向比較>を表すことができる。中国語の“相当”が<一方向の比較>を表す場合、<比較のポイント>は文中に現れるかどうか、どこに現れるかはかなり自由である。たとえば、(18a)のように、<比較のポイント>である“价值”は文中に現れなくてもいいし、現れる場合は(18b)~(18e)のように、それぞれ文頭、<比較の対象>の後ろ、<比較の対象>の内部、<比較の基準>の内部など様々な位置に現れる。

- (18)a. 1 万日元相当于 500 人民币。(P が現れない)  
b. 就价值而言, 1 万日元相当于 500 人民币。(P が文頭に現れる)  
c. 1 万日元价值相当于 500 人民币。(P が<比較の対象>の後ろに現れる)  
d. 1 万日元的价值相当于 500 人民币。(P が<比較の対象>の中に入る)  
e. 1 万日元相当于 500 人民币的价值。(P が<比較の基準>の中に入る)

同様に、日本語の「相当する」が<一方向の比較>を表す場合、中国語の“相当”と同じように、<比較のポイント>は現れなくてもいいし、文頭、<比較の対象>の後ろまたはその内部、<比較の基準>の内部に現れることもある。

---

<sup>6</sup> “和”のほかにも、“跟”、“与”、“同”などの前置詞も用いられる。

- (19)a. 1万円は500人民元に相当する。(Pが現れない)
- b. 価値において、1万円は500人民元に相当する。(Pが文頭に現れる)
- c. 1万円は価値が500人民元に相当する。(Pが<比較の対象>の後ろに現れる)
- d. 1万円の価値は500人民元に相当する。(Pが<比較の対象>の中に入る)
- e. 1万円は500人民元の価値に相当する。(Pが<比較の基準>の中に入る)

次に<双方向の比較>における<比較のポイント>について見る。日本語の「相当する」は<双方向の比較>を表すことができないため、中国語の“相当”の場合に限って考察する。“相当”が<双方向の比較>を表す場合、<比較の対象>と<比較の基準>は“他们两个人”のような集合名詞で現れたり、“小李和小王”のような二つの名詞で現れたりする。集合名詞の場合でも二つの名詞の場合でも<比較のポイント>に関する制約は同じである。次の(20)と(21)はそれぞれの用例である。(20a)～(20c)と(21a)～(21d)では<比較のポイント>である“水平”は“相当”の直前、文頭、<比較の対象>または<比較の基準>の内部に現れることがある。一方、(20d)や(21e)のように文面に<比較のポイント>である“水平”が現れないと、何がほぼ同じなのか分からないため非文となる。

- (20)a. 他们两个人水平相当。(Pが“相当”の直前に現れる)
- b. 论水平，他们两个人相当。(Pが文頭に現れる)
- c. 他们两个人的水平相当。(Pが<比較の対象/基準>の中に入る)
- d. \*他们两个人相当。(Pが現れない)
- (21) a. 小李和小王（的）水平相当。(Pが“相当”の直前に現れる)
- b. 论水平，小李和小王相当。(Pが文頭に現れる)
- c. 小李的水平和小王相当。(Pが<比較の対象/基準>の中に入る)
- d. 小李和小王的水平相当。(Pが<比較の対象/基準>の中に入る)
- e. \*小李和小王相当。(Pが現れない)

上の(20)と(21)から分かるように、中国語の“相当”が<双方向の比較>を表す場合、<比較のポイント>を文中に明示する必要がある。この点で、<一方向の比較>の場合に<比較のポイント>を文中に明示しなくてもよいのとは対照的である。

## 5. 終わりに

以上の考察をまとめると、表 3 のようになる。中国語の“相当”は<一方向の比較>も<双方向の比較>も表すことができるのに対して、日本語の「相当する」は<一方向の比較>しか表すことができない。また、<一方向の比較>の場合、中国語は“A 相当于 B”、日本語は「A は B に相当する」の構文で表される。<双方向の比較>の場合、<比較の対象>と<比較の基準>は集合名詞(ex. “他们两个人”)、または二つの名詞(ex. “小李和小王”)で表される。

表 3 中国語の“相当”と日本語の「相当する」の構文的特徴の比較

	一方向の比較	双方向の比較
中国語の “相当”	A 相当于 B	A 和 B P 相当; n(=集合名詞)P 相当
日本語の 「相当する」	A は B に相当する	(「相当する」は使えない。「ほぼ同じだ」などという)

注:A=<比較の対象>、B=<比較の基準>、P=<比較のポイント>

以上、中国語の“相当”と日本語の「相当する」の異同について検討してきた。中国語の“相当”は<一方向の比較>も<双方向の比較>も表すことができるが、日本語の「相当する」は<一方向の比較>しか表すことができない。また、今回の考察から分かるように、比較の意味を表す語の分析において方向性の有効性が確認されたと言える。今後は中国語の“比字句”や日本語の「より」構文などの同等比較以外のものについても、方向性というカテゴリーを通して意味の記述及び対照研究を行いたい。

## [参考文献]

范晓(編)(1998)《汉语的句子类型》书海出版社, pp.182-196.

朱德熙(1982)《语法讲义》商务印书馆, pp.176-178.

呉曉一(2012)〈汉语“相当”和日语「相当」〉《汉日语同形副词研究》(施建军ほか編)学苑出版社, pp. 59-92.

菱沼透ほか(編) (2002)『日中辞典』(第2版) 小学館／北京・商務印書館

森田良行(1988)『日本語の類義表現』創拓社, pp.333-340.

依藤醇ほか(編) (2003)『中日辞典』(第2版) 小学館／北京・商務印書館.

